計画的行動理論に基づく防犯行動促進要因の検討

○菱木智愛¹・荒井崇史²

(¹ 追手門学院大学大学院心理学研究科・² 追手門学院大学心理学部)

キーワード: 計画的行動理論, 防犯行動, 促進要因

Determinants of crime prevention: From the perspective of the theory of planned behavior.

Chitose HISHIKI¹ and Takashi ARAI²

(¹ Graduate School of Psychology, Otemon Gakuin University, ² Faculty of Psychology, Otemon Gakuin University)

Key Words: theory of planned behavior, crime prevention behavior, promotion factor

問題と目的

防犯行動は、我々の多くが実施した方が良いと考える行動であろう。しかしながら、このように行動に対してポジティブな態度を有していたとしても、必ずしも行動が実行される訳ではない。こうした態度と行動とのズレはどのように説明することができるのであろうか。

Ajzen (1991) は計画的行動理論 (theory of planned behavior) を通して、行動を規定するのは必ずしも態度だけではなくことを指摘する。計画的行動理論では、行動を直接規定する要因として、“行動意図 (behavior intention)” を挙げている。行動意図は、ある行動をとうろうという人々の意志に基づいた動機であり、行動意図が強い程、行動につながる。その行動意図を規定する要因に、“態度 (attitude)” をはじめとして“主観的規範 (subjective norm)”、“行動統制感 (perceived behavior control)” が挙げられている。計画的行動理論における態度とは、人々にとってその行動が好ましいか否かの評価と定義され、ある行動に対し、好ましい態度であれば行動につながる。主観的規範は、自分にとって大切な人々が行動すべきと思う程度の知覚と定義され、両親や友人などの自分にとって大切な人々が「行動すべき」と強く考えていると認識するほど、行動意図が高まるとされている。行動統制感とは、行動遂行に伴う容易さの程度の評価と定義されるが、Ajzen (2002) によると、行動遂行が簡単か困難かに関する自己効力感 (self-efficacy) と、遂行は行為者次第である範囲に関する制御可能性 (controllability) の2つの構成要素を包括しているとされる。

計画的行動理論は健康に関する行動や環境配慮行動を説明するうえで、有用なモデルであることが示されてきたが、防犯行動については検討されていない。そこで、本研究では、防犯行動について、計画的行動理論が適用可能か否かを女性の防犯行動を取り上げて、検討することとした。

方法

調査対象者と手続き 関西の私立大学に在籍する女子大学生、大学院生を対象に、質問紙調査を実施した。本研究では、対象行動を「イヤホンを外して歩く」と設定したため、得られた回答から「イヤホンで音楽を聴かず、かつ防犯対策のためにイヤホンを外しているわけではない」2名を除外し、最終的に302名 ($M=19.47 \pm 1.38$ 歳) を分析対象とした。

質問紙の構成 使用した尺度は、以下の6つであった (全て7件法)。(a) 防犯行動の実施度として、1項目を用いた。Ajzen & Fishbein (1980) が使用した測定項目を邦訳し、(b) 行動意図の1項目、(c) 対象行動に対する態度として、対象行動に対するSD法による4つの評定、(d) 主観的規範の1項目を用いた。行動統制感とは、(e) 自己効力感として4項目および(f) 制御可能性として2項目を独自で作成した。

結果

計画的行動理論に基づいた防犯行動の仮説モデルを検討するために、構造方程式モデリングを行った。最終的に得られたモデルをFigure 1に示す。適合度指標は $\chi^2(53) = 108.86$ ($p < .01$), GFI = .95, AGFI = .91, CFI = .96, RMSEA = .06 であった。結果を詳細に見ると、主観的規範および自己効力感、制御可能性の3変数が行動意図へ影響を及ぼしており、行動意図と自己効力感、制御可能性が行動へと影響を及ぼしていた。ただし、態度から行動意図への影響は見られず、制御可能性の認知は、行動意図および実際の行動を抑制するという結果が得られた。

Figure 1 構造方程式モデリングによるパス解析の結果

考察

本研究は、イヤホンを使用している女性を対象に、計画的行動理論が防犯行動を説明するモデルとして有効かどうかを検討した。その結果、先行研究と同様に、女性の防犯行動の説明理論として、計画的行動理論はある程度有効な理論背景になると考えられる。本研究の結果を踏まえると、ポジティブな態度を有するよりも、行動しようという動機を高め、継続的に実行することが簡単であるという自信を持つことができれば、行動が遂行されることが考えられる。

引用文献

- Ajzen, I. (1991). The theory of planned behavior. *Organizational Behavior and Human Decision Processes*, 50, 179-211.
- Ajzen, I. (2002). Perceived behavioral control, self-efficacy, locus of control, and the theory of planned behavior. *Journal of Applied Social Psychology*, 32, 4, 665-683.
- Ajzen, I. & Fishbein, M. (1980). *Understanding attitudes and predicting social behavior*. Englewood Cliffs, Prentice-Hall, New Jersey.